

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	介護保険特別会計 介護給付費適正化事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	介護高齢課		包含する細々目							
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	35 高齢者福祉の推進											
実施区分	継続	会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等	介護保険法 介護保険事業計画 高齢者保健福祉計画						
		事業期間	18年度～	年度								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	介護保険特別会計の保険給付費	保険給付費の当初予算額(千円)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了した年度とする	
			7345827	8189446		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	介護保険の給付が適正に行われることにより、高齢者が安心して暮らすことが出来る。	給付適正化事業によって返還された給付費の額(千円)	18目標	最終目標	100	
			18実績	1000	19目標	700
		23目標	100	23実績		最終目標達成年度
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	介護保険サービスの給付データを確認することにより、不適正な給付(誤りを含む)である場合に、介護保険サービス事業所に返還手続きを行ってもらう。	国民健康保険団体連合会から送付される給付データを確認することにより、不適正な給付(誤りを含む)である可能性が高い事例を抽出し、不適正であると確認できた場合には、介護保険サービス事業所に返還手続きを行ってもらう。	確認したデータの件数	6401
	18年度の実績			
	19年度計画	国民健康保険団体連合会から送付される給付データを確認することにより、不適正な給付(誤りを含む)である可能性が高い事例を抽出し、不適正であると確認できた場合には、介護保険サービス事業所に返還手続きを行ってもらう。	確認したデータの件数	8000

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
一般財源			
事業費計(A)		0	0
人件費	正規職員所要時間	18年度 100	19年度 100
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	358	358
	トータルコストA+B	358	358

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	支援を必要とする高齢者及びその世帯が、安心していきいき暮らせる。	安心して暮らせている高齢者の割合	現状値	59.6	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	60
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

<p><b>この事業を開始したきっかけ</b></p> <p>介護給付の適正化については、介護給付費が増大している状況を踏まえ、全国的にも介護保険事業の課題のひとつとしてクローズアップされてきた。また、本市においても出来るだけ早急に実施する必要性があり、かつ、国からも積極的に示すよう指示がされているため、平成18年度より実施した。</p>	<p><b>事業を取り巻く状況の変化</b></p> <p>高齢化率の上昇と、介護保険制度の浸透により、介護保険受給者が増え続けている。そのため、介護給付費や介護保険事業を運営するための経費が増え続けており、これに伴い介護保険料も上昇している。</p>	<p><b>事業に対する市民や議会の意見</b></p> <p>市民から、保険料の上昇に伴い「過剰な給付については抑制すべき」という意見が寄せられている。</p>
--	--	---

**【See】18年度の振り返り**

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	<p>(評価) <b>結びつく</b> (その理由)</p> <p>介護保険制度が公平・適正に運用されることにより、支援を必要とする高齢者も安心して制度を活用できる。</p>	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	<p>(評価) <b>余地がある</b> (その理由)</p> <p>事務的に、対象データの範囲を拡大することは可能。</p>
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	<p>(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)</p> <p>対象となりうるものが他にない。</p>		廃止・休止した場合の影響はありますか？	<p>(評価) <b>影響あり</b> (その理由)</p> <p>請求誤り等のチェックが出来なくなる。</p>
	意図の見直しの必要性はありますか？	<p>(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)</p> <p>対象に対する意図としては妥当であり、これ以外は考えにくい。</p>		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	<p>(評価) <b>関連事業あり</b> (類似事業名、理由)</p> <p>ケアプラン指導研修事業 現在でも連携しており、また、統合のメリットがない。</p>
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	<p>(評価) <b>必要ある</b> (その理由)</p> <p>介護保険制度上の保険者であるため</p>		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	<p>(評価) <b>可能</b> (その理由)</p> <p>大幅な削減は望めないが、事務の方法によっては、多少人件費を削減できる可能性はある。</p>
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	<p>(評価) <b>妥当である</b> (受益者とその理由)</p> <p>受益者は、介護保険被保険者及び介護保険サービス受給者。負担はなし。</p>

**【Plan】改革改善**

<p><b>今後の事業の方向性</b></p> <p> <input type="checkbox"/> 終了  <input type="checkbox"/> 廃止  <input type="checkbox"/> 休止  <input type="checkbox"/> 目的見直し  <input type="checkbox"/> 別事業に統合  <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善  <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持         </p> <p>実施年度 <b>2026年度</b></p> <p>具体化</p>	<p><b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b></p> <p>県の「介護給付適正化プログラム」が平成19年度中に策定される予定であるため、この動向を勘案しつつ、事務効率の改善及び対象データの拡大等につき、年度末までに検討していく。</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p> <p>大きな課題はない。</p>
--	--

**【補足事項環境側面】**

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

**【指摘事項】**

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	